

令和6年度富山県公共事業再評価調査

整理番号	事業名	路線名・河川名等					事業箇所			
19	砂防総合交付金事業(砂防)	シライワガワスイケイヘビサワドウタニ 白岩川水系蛇沢堂谷					タテヤママチアシミ 立山町芦見			
着手	完了	経過年数	残事業年数	再評価区分	総事業費(百万円)	前年度まで事業費(百万円)	R6事業費(百万円)	残事業費(百万円)	進捗率	
R2	R13 (R8)	5	7	再	270	30	5	235	13.0%	
全体計画										
砂防堰堤工 1基(高さ7.0m 長さ59.0m)										

事業費の単位は百万円、下段()書きは事業着手時又は前回再評価時の数値である

事業概要の説明

本溪流は土石流危険溪流に指定されており、河床勾配が約1/5と急勾配で、流域内に不安定土砂が多く堆積していることから、豪雨等により大量の土砂が流出する恐れがある。
 豪雨により土石流が発生すると、下流の人家5戸、道路270mに甚大な被害を及ぼす恐れがあることから、砂防堰堤を整備し、土砂災害から住民の生命・財産及び重要交通網を土砂災害から守る必要がある。

評価の視点と自己評価内容

1. 事業を巡る社会経済情勢等の変化

指標名	単位	事業着手時	今回評価時	備考
保全対象人家戸数	戸	5	5	変化なし
” 道路(町道)	m	270	270	変化なし
” 河川(二級)	m	440	440	変化なし
立山町人口	人	25,696 (R2.4)	24,499 (R6.4)	4.7%減少 (△1,197)

自己評価内容

本事業箇所の保全対象である人家戸数、道路(町道)、河川に変化は無く、砂防堰堤建設の重要性は高い。

評価結果

事業継続が妥当

2. 事業の投資効果

指標名	単位	事業着手時	今回評価時	備考
費用便益比(B/C)		2.3 (R2算出)	2.0 (R6算出)	

数値化が困難な事業効果

・本事業では、災害時の医療活動・消防活動・人員物資輸送の遅延など、「交通途絶による波及被害抑止効果」が見込まれる。
 ・また土石流に対する安全度の向上に伴う、「地域住民の被災可能性に対する不安の軽減効果」が見込まれる。

自己評価内容

・詳細検討を行った結果、当初よりも便益の減少があるものの、費用便益比は2.0となっており、十分な投資効果が見込まれる。
 ・本事業を行うことにより、交通途絶被害の抑止や土砂災害に対する下流の住民の不安軽減が図られる。

評価結果

事業継続が妥当

3. 事業の進捗状況、見込								
全体計画			令和6年度まで整備済		未整備内容		令和6年度までの進捗率 (%)	
主な工種(単位)	数量	事業費 (百万円)	数量	事業費 (百万円)	数量	事業費 (百万円)	事業量ベース	事業費ベース
測量、設計(式)	1	35	1	35	0	0	100.0%	100.0%
用地補償(式)	1	10	0	0	1	10	0.0%	0.0%
管理用道路(式)	1	20	0	0	1	20	0.0%	0.0%
堰堤工(基)	1	205	0	0	1	205	0.0%	0.0%
合計	4	270	1	35	3	235		13.0%

残事業内容および今後の整備見込

- ・これまで、堰堤工の詳細設計が終わり、用地取得を進める予定である。
- ・用地取得が終わり次第、順次工事を進め、事業進捗を図る見込みである。

自己評価内容

- ・公図混乱地域であり、地質調査の作業承諾を得る際に土地所有者の特定に時間を要した。
- ・今後、用地の境界確定において時間を要する可能性があるが、地元住民や町役場との協力体制を構築しており、事業を推進していく予定である。

評価結果

事業継続が妥当

4. 今後のコスト縮減や代替案立案等の可能性(工法、計画の見直し等含む)

自己評価内容

堰堤工形式の決定にあたり、複数工法のライフサイクルコストを検討し、経済的に最も有利な「HBBO⁺型砂防堰堤(重力式コンクリート堰堤)」を採用している。
(約1百万円のコスト縮減)

評価結果

事業継続が妥当

その他の視点

5. 関係機関との調整状況、他事業との関連など

当区域は土砂災害警戒区域となっており、立山町の重点事業として早期完成の要望を受けている。

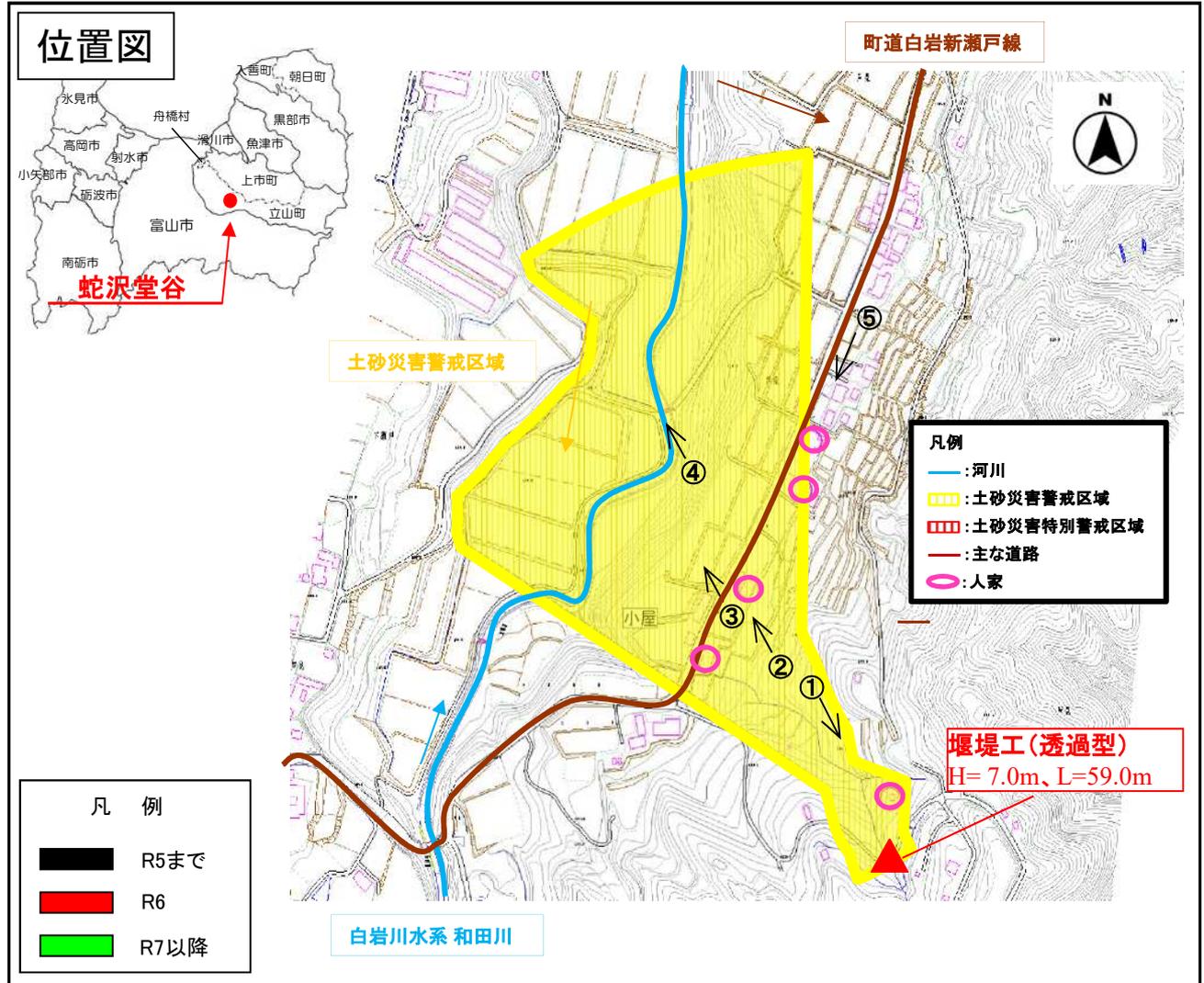
6. 事業の緊急性(適時性)および事業を見直した場合に想定される影響

近年、豪雨災害が激甚化・頻発化しており、事業を早期に完成させ下流に立地している人家や道路等を保全する必要がある。

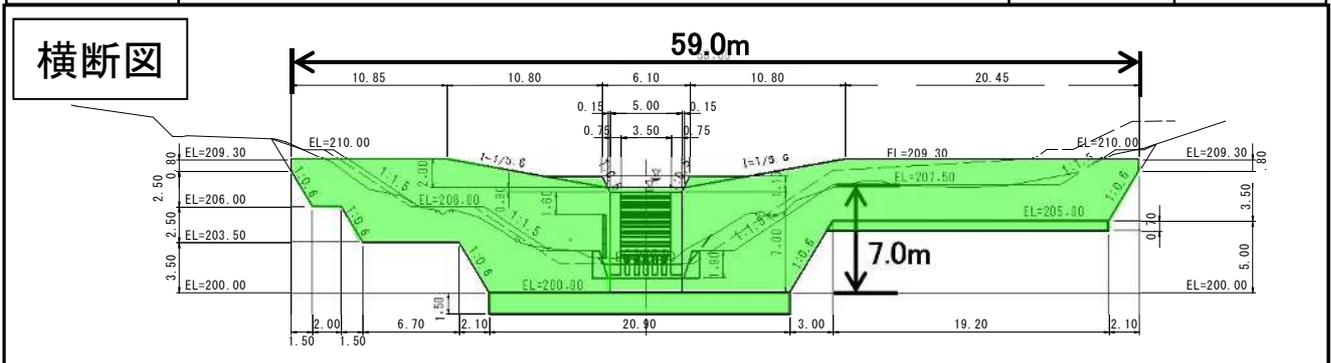
自己評価内容の総括

対応方針(案)	対応方針(案)の説明
継続	<ul style="list-style-type: none"> ・土砂災害から住民の生命、財産を守るため、当事業の実施が必要である。 ・費用便益比は2.0となっており、十分な投資効果が見込まれる。 ・町や地元地区は協力的であり、今後は進捗していくと考えている。 ・立山町からの重点事業要望箇所である。 以上のことから、事業継続が必要である。

19 砂防総合交付金事業(砂防) 白岩川水系蛇沢堂谷 (立山町芦見)



主な工種 (全体事業量)	砂防堰堤工 1基	R6までの進捗率	
		事業量 ベース	事業費 ベース
測量・設計		100%	100%
用地補償		0%	0%
管理用道路		0%	0%
堰堤工 (高さ7.0m)		0%	0%
全体		—	13.0%



整備前の状況

①堰堤予定地点



④保全対象(白岩川水系和田川)



②下流を望む



⑤保全対象(人家5戸、県道270m)



③保全対象(人家5戸、県道270m)



⑥溪流荒廃状況



令和6年度富山県公共事業再評価調査

整理番号	事業名	路線名・河川名等					事業箇所			
24	砂防総合交付金事業(砂防)	アオガワ スイケイヨシタキダニ 阿尾川水系吉滝谷(1)					ヒシシ ヨシタキ 氷見市吉滝			
着手	完了	経過年数	残事業年数	再評価区分	総事業費(百万円)	前年度まで事業費(百万円)	R6事業費(百万円)	残事業費(百万円)	進捗率	
R2	R10 (R6)	5年	4年	再	210	46	20	144	31.4%	
全体計画										
砂防堰堤工 1基(高さ5.0m 長さ26.0m)										

事業費の単位は百万円、下段()書きは事業着手時又は前回再評価時の数値である

事業概要の説明

本溪流は土石流危険溪流に指定されており、平均溪床勾配が約1/4.7と急勾配で、流域内に不安定土砂が多量に堆積していることから、豪雨等により多量の土砂が流出する恐れがある。
豪雨により土石流が発生すると、下流の人家14戸、県道420m、等に甚大な被害を及ぼす恐れがあることから、砂防堰堤を整備し、土砂災害から住民の生命・財産及び重要交通網を守る必要がある。

評価の視点と自己評価内容

1. 事業を巡る社会経済情勢等の変化

指標名	単位	事業着手時	今回評価時	備考
保全対象人家戸数	戸	14	14	変化なし
保全対象道路(県道)	m	420	420	変化なし
保全対象道路(その他)	m	900	900	変化なし
氷見市人口	人	46,420 (R2.4)	42,866 (R6.4)	7.7%減少 (△3,554)

自己評価内容

保全対象である人家戸数、道路(県道、その他道路)延長に変化は無く、砂防堰堤建設の重要性は高い。

評価結果

事業継続が
妥当

2. 事業の投資効果

指標名	単位	事業着手時	今回評価時	備考
費用便益費(B/C)	—	7.8 (R2算出)	5.9 (R6算出)	

数値化が困難な事業効果

- ・本事業では、道路の途絶による災害時の医療活動・消防活動の遅延など間接被害を抑止する効果が見込まれる。
- ・また、土石流に対する安全度の向上に伴う地域住民の安心感向上効果が見込まれる。

自己評価内容

・全体事業費は変わっていないものの、費用便益分析マニュアルの算定式が改定され、その被害額が低減されたことなどにより、費用便益比は5.9と減少しているが、引き続き十分な投資効果が見込まれる。
・本事業を行うことにより、交通途絶被害の抑止や土砂災害に対する下流住民の安全性向上が図られ、事業投資効果は高い。

評価結果

事業継続が
妥当

3. 事業の進捗状況、見込								
全体計画			令和6年度まで整備済		未整備内容		令和6年度までの進捗率 (%)	
主な工種(単位)	数量	事業費 (百万円)	数量	事業費 (百万円)	数量	事業費 (百万円)	事業量ベース	事業費ベース
測量、設計(式)	1	38	1	38	0	0	100.0%	100.0%
用地補償(式)	1	8	1	8	0	0	100.0%	100.0%
管理用道路(m)	110	14	55	7	55	7	50.0%	50.0%
堰堤工(基)	1	150	0	13	1	137	8.7%	8.7%
合計		210		66		144		31.4%

残事業内容および今後の整備見込

- ・これまでに堰堤工の詳細設計と用地補償が完了している。
- ・今年度は、管理用道路と堰堤工の整備への着手を予定している。
- ・事業は順調に進むものと考えており、今後は工事を順次進め、事業の進捗を図る。

自己評価内容

評価結果

- ・これまでに堰堤工の詳細設計と用地補償が完了している。
- ・今年度は、管理用道路と堰堤工の整備への着手を予定している。
- ・今後は工事を順次進めて事業の進捗を図る。

事業継続が妥当

4. 今後のコスト縮減や代替案立案等の可能性(工法、計画の見直し等含む)

自己評価内容

評価結果

堰堤工の形式の決定にあたり、現地調査のうえ比較検討し、経済性で最も有利な「重力式コンクリート堰堤工」を採用している。
(約600千円のコスト縮減)

事業継続が妥当

その他の視点

5. 関係機関との調整状況、他事業との関連など

- ・地元より早期完成の要望を受けている。

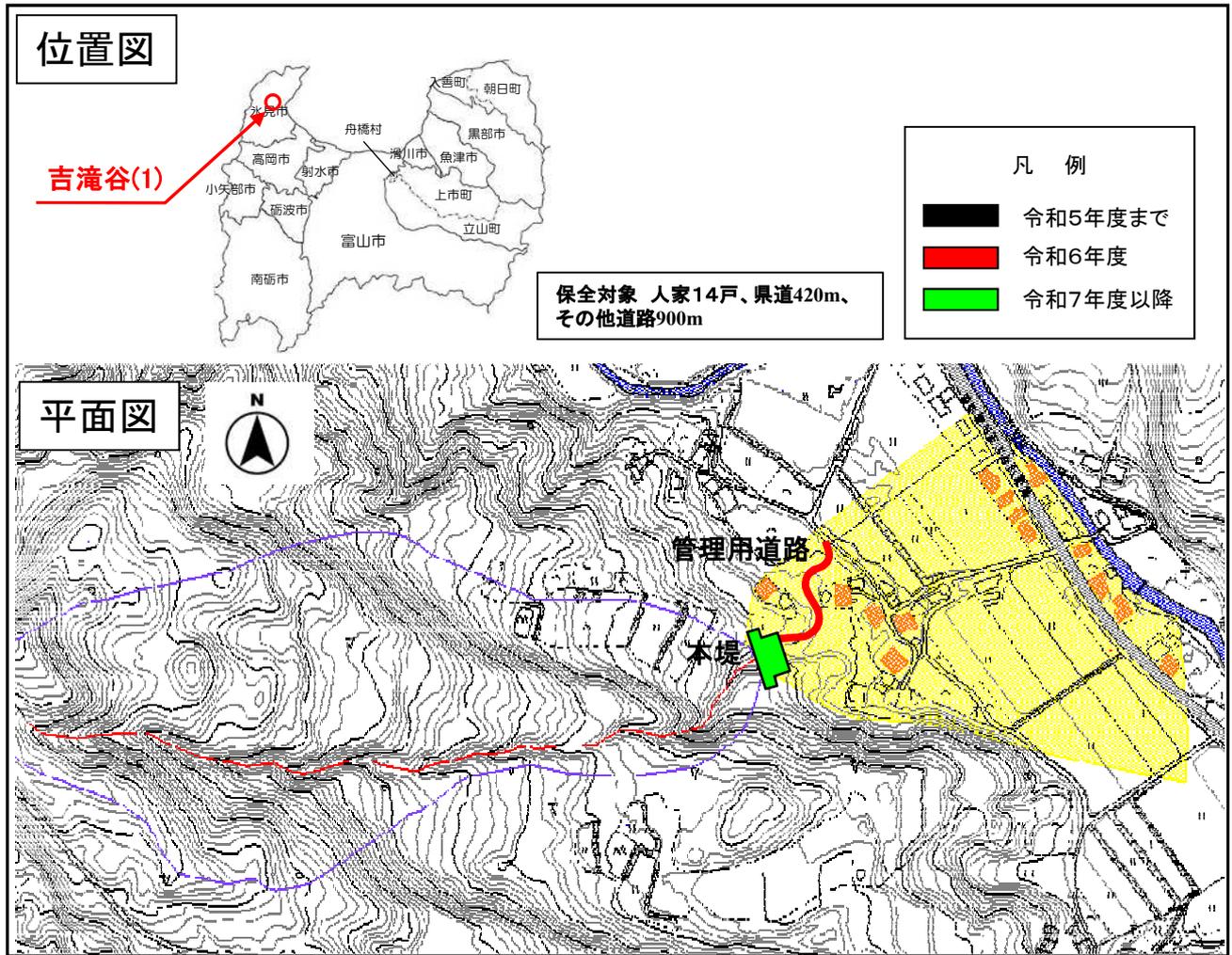
6. 事業の緊急性(適時性)および事業を見直した場合に想定される影響

近年は、局所的な集中豪雨に降雨形態が変化してきている。このため、事業を着実に進め、下流に立地している人家や道路等の保全をする必要がある。

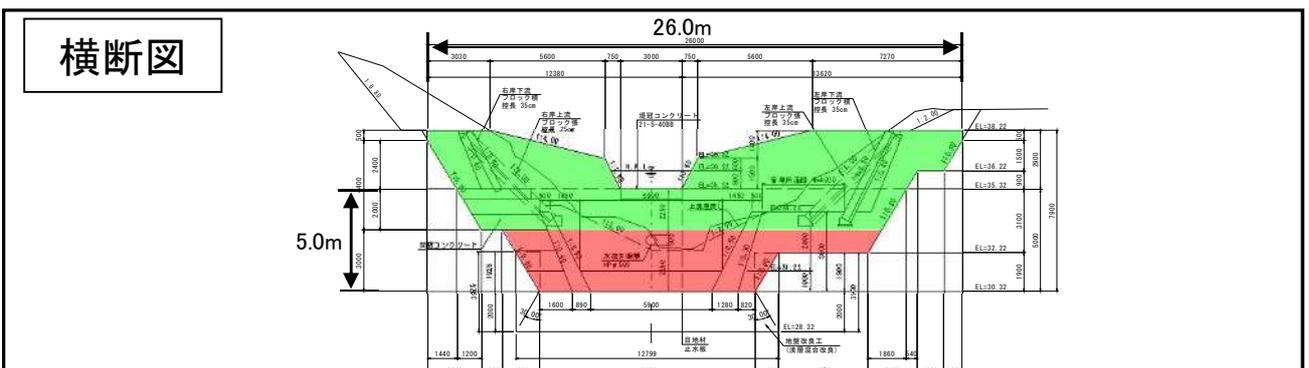
自己評価内容の総括

対応方針(案)	対応方針(案)の説明
継続	<ul style="list-style-type: none"> ・土砂災害から住民の生命、財産を守るため、当事業の実施が必要である。 ・費用便益比は5.9となっており、十分な投資効果が見込まれる。 ・市や地元地区は協力的であり、今後は事業が進捗していくと考えている。 以上のことから、事業継続が必要である。

24 砂防総合交付金事業(砂防) 阿尾川水系吉滝谷(1) (氷見市吉滝)

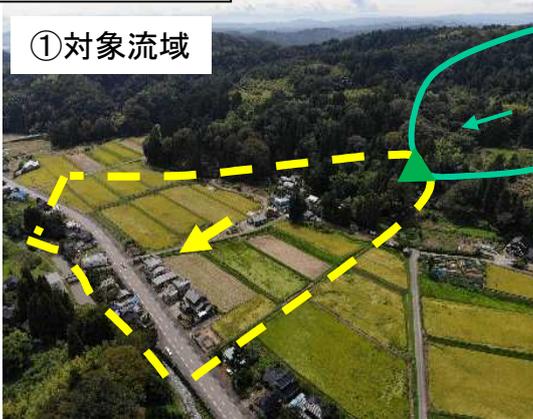


主な工種 (全体事業量)	砂防堰堤工 1基	R6までの進捗率	
		事業量 ベース	事業費 ベース
測量・設計 用地補償		100%	100%
管理用道路		50%	50%
堰堤工 (高さ5.0m)		8.7%	8.7%
全体		—	31.4%



整備前の状況

①対象流域



③溪流の状況



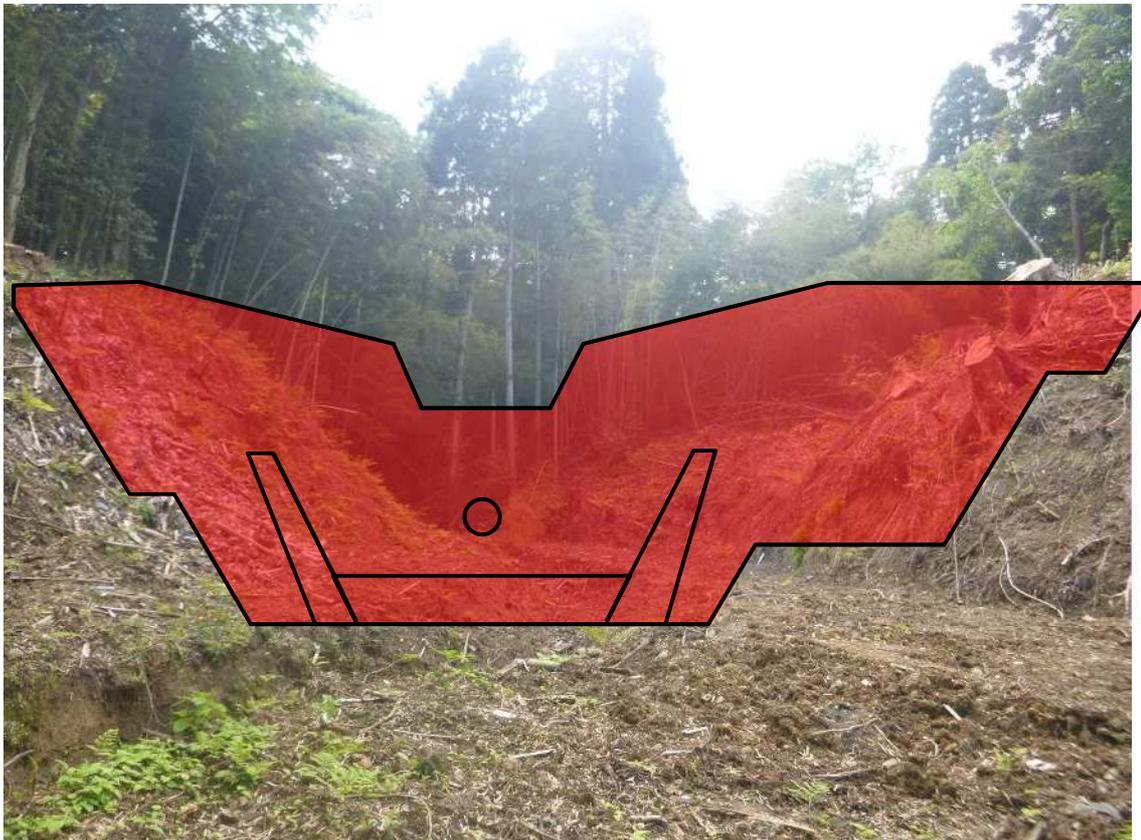
②保全対象



④溪流の状況



現況写真(整備後の状況)



令和6年度富山県公共事業再評価調査

整理番号	事業名	路線名・河川名等					事業箇所			
26	砂防関係施設整備費(砂防)	オヤベ ガワスイケイ ダニ 小矢部川水系すずめ谷					オヤベシ ヤツワマチ 小矢部市八和町			
着手	完了	経過年数	残事業年数	再評価区分	総事業費(百万円)	前年度まで事業費(百万円)	R6事業費(百万円)	残事業費(百万円)	進捗率	
R2	R10(R7)	5	4	再	220	38	20	162	26.4%	

全体計画

砂防堰堤工 1基(高さ6.5m、長さ76.0m)

事業費の単位は百万円、下段()書きは事業着手時又は前回再評価時の数値である

事業概要の説明

本溪流は土石流危険溪流に指定されており、河床勾配が1/10.0~1/2.5と急勾配で、流域内に不安定土砂や倒木が多量に堆積していることから、豪雨等により多量の土砂及び流木が流出する恐れがある。
 豪雨により土石流が発生すると、下流の人家26戸、公民館1棟、市道766m、その他道路180mに甚大な被害を及ぼす恐れがあることから、砂防堰堤を整備し、土砂災害から住民の生命・財産及び重要交通網を土砂災害から守るもの。

評価の視点と自己評価内容

1. 事業を巡る社会経済情勢等の変化

指標名	単位	事業着手時	今回評価時	備考
保全対象人家戸数	戸	26	26	変化なし
〃 道路(県道)	m	65	0	市へ移管
〃 道路(市道)	m	701	766	県から移管
〃 道路(その他)	m	180	180	変化なし
公民館	棟	1	1	変化なし
小矢部市人口	人	28792 (R2.10)	27851 (R5.10)	3.2%減少 (△941)

自己評価内容

県道から市道への移管があったが、その他の保全対象である人家戸数、公民館等に変化は無く、砂防堰堤建設の重要性は依然として高い。

評価結果
事業継続が妥当

2. 事業の投資効果

指標名	単位	事業着手時	今回評価時	備考
費用便益比(B/C)		13.1 (R2算出)	9.9 (R6算出)	

数値化が困難な事業効果

・本事業では、道路の途絶による災害時の医療活動・消防活動・人員物資輸送の遅延など間接被害を抑止する効果が見込まれる。
 ・このほか本事業では、土石流に対する安全度の向上に伴う地域住民の安心感向上効果が見込まれる。

自己評価内容

・全体事業費は変わっていないものの、費用便益分析マニュアルの算定式が改定され、その被害額が低減されたことなどにより、費用便益比は9.9と減少しているが、引き続き十分な投資効果が見込まれる。
 ・本事業を行うことにより、交通途絶被害の軽減や土砂災害に対する下流の住民の安全性が向上する効果が図られる。

評価結果
事業継続が妥当

3. 事業の進捗状況、見込								
全体計画			令和6年度まで整備済		未整備内容		令和6年度までの進捗率 (%)	
主な工種(単位)	数量	事業費 (百万円)	数量	事業費 (百万円)	数量	事業費 (百万円)	事業量ベース	事業費ベース
測量、設計(式)	1	38	1	38	0	0	100.0%	100.0%
用地補償(式)	1	20	1	20	0	0	100.0%	100.0%
管理用道路(式)	1	40	0	0	1	40	0.0%	0.0%
堰堤工(基)	1	122	0	0	1	122	0.0%	0.0%
合計	4	220	2	58	2	162		26.4%

残事業内容および今後の整備見込

- ・これまで、堰堤工の詳細設計を終え、用地測量に着手し用地取得に向けて順調に進んでいる。
- ・今後は管理用道路、堰堤工事を順次進め、事業進捗を図る。

自己評価内容

豪雨災害や地震災害により時間を要したものの、用地測量に着手し、現在は順調に進んでいる。

評価結果

事業継続が妥当

4. 今後のコスト縮減や代替案立案等の可能性(工法、計画の見直し等含む)

自己評価内容

堰堤工形式の決定にあたり、現地調査のうえ比較検討し、経済性で最も有利な「重力式コンクリート堰堤工」を採用している。
(約313千円のコスト縮減)

評価結果

事業継続が妥当

その他の視点

5. 関係機関との調整状況、他事業との関連など

当区域は土砂災害警戒区域となっており、小矢部市の重点事業として早期完成の要望を受けている。

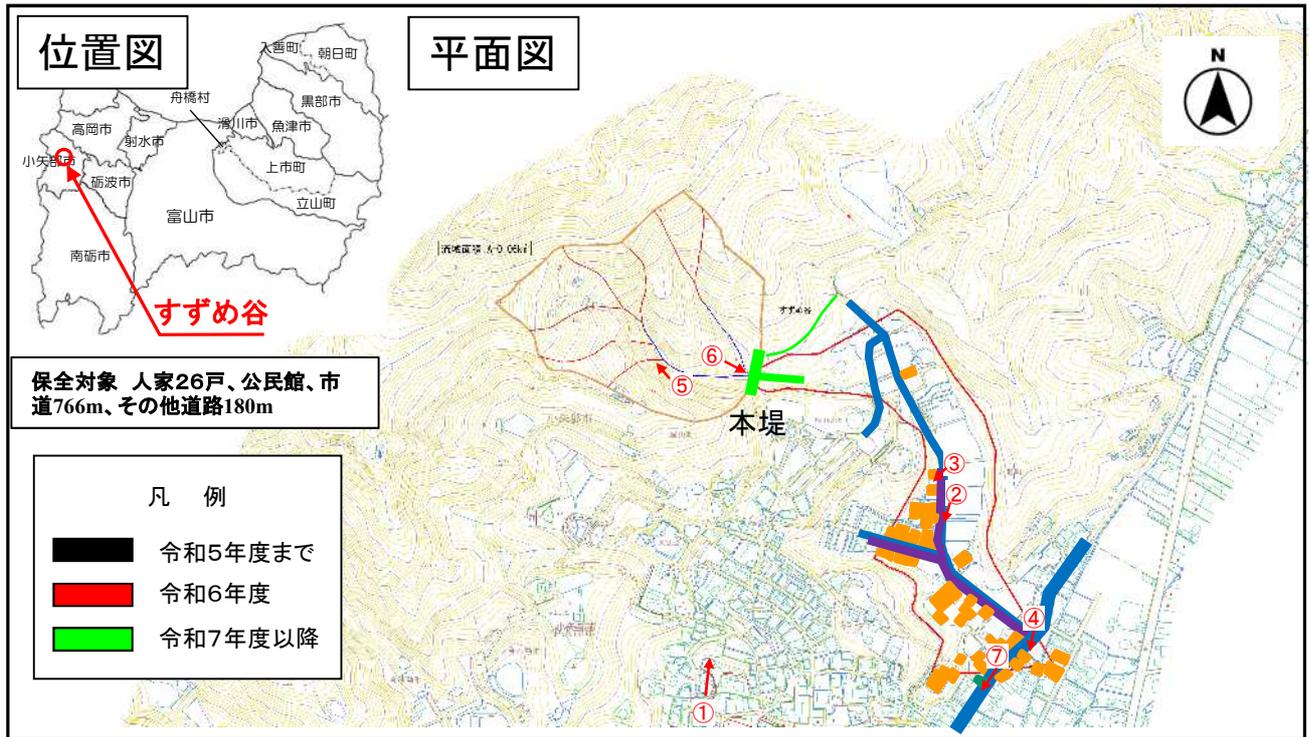
6. 事業の緊急性(適時性)および事業を見直した場合に想定される影響

近年は、ゲリラ豪雨に代表されるよう降雨形態が変化してきている。このため事業を早期に完成させ下流に立地している人家や道路等を保全する必要がある。

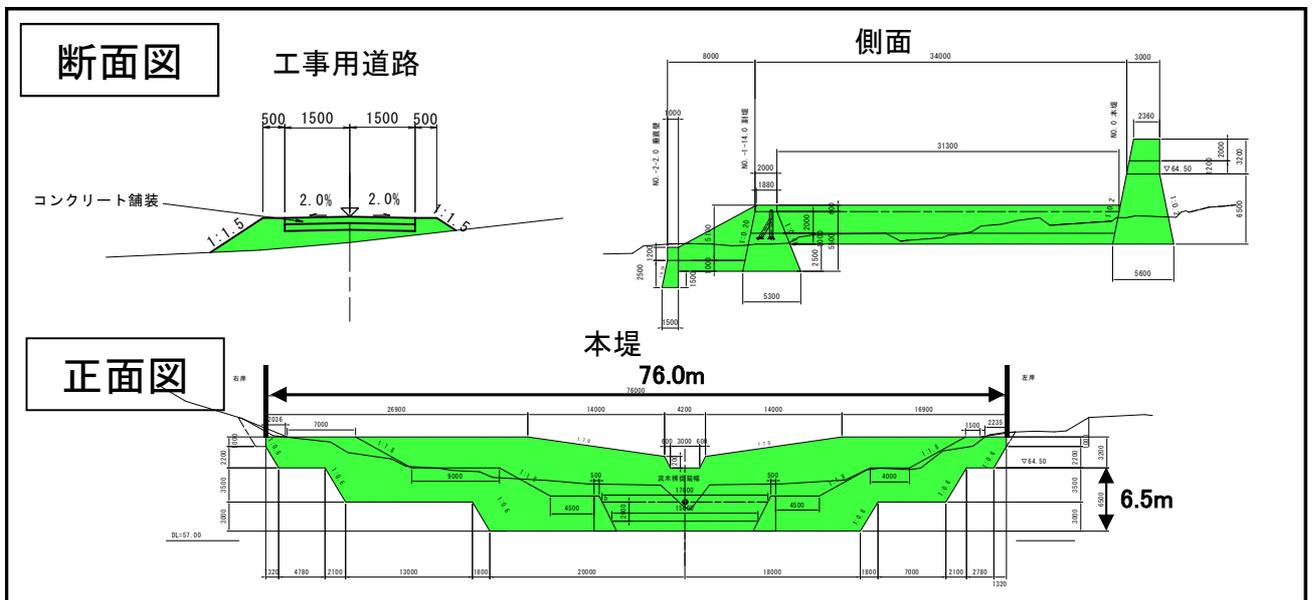
自己評価内容の総括

対応方針(案)	対応方針(案)の説明
継続	<ul style="list-style-type: none"> ・土砂災害から住民の生命、財産を守るため、当事業の実施が必要である。 ・費用便益比は9.9となっており、十分な投資効果が見込まれる。 ・市や地元地区は協力的であり、今後は進捗していくと考えている。 ・小矢部市からの重点事業要望箇所である。 以上のことから、事業継続が必要である。

26 砂防関係施設整備費(砂防) 小矢部川水系すずめ谷(小矢部市八和町)



主な工種 (全体事業量)	砂防堰堤工 1基	R6までの進捗率	
		事業量 ベース	事業費 ベース
測量・設計 用地補償費		100%	100%
管理用道路兼 工事用道路		0%	0%
堰堤工 (高さ6.5m)		0%	0%
全体		—	26.4%



整備前の状況

①全景



④溪流の状況



②保全対象人家、市道



⑤溪流の状況



③保全対象人家



⑥保全対象市道(旧県道)



④保全対象公民館



令和6年度公共事業再評価調査

整理番号	事業名			路線名・河川名等			事業箇所		
45	県営林道開設交付金事業			まちなみずせん 町長水須線			とやましかわち 富山市河内地内		
着手	完了	経過年数	残事業年数	再評価区分	総事業費 (百万円)	前年度まで 事業費 (百万円)	R6 事業費 (百万円)	残事業費 (百万円)	進捗率
R2	R13 (R11)	5年	7年 (5年)	再評価 (重点)	1,248 (920)	167	34	1,047 (719)	16.1% (21.9%)
全体計画									
延長 L=4,100m(3,600m) 全幅員 W=5.0m									

事業費の単位は百万円、()書きは当初計画時の数値である

事業概要の説明

当路線は、富山市(旧大沢野町)町長地内の一般地方道東猪谷富山線を起点とし、富山市(旧大山町)水須地内の市道才覚地水須線を終点とする全長29.85kmに及ぶ森林基幹道で、神通川と常願寺川に挟まれた大小の4流域を結ぶ森林地帯の林内路網の骨格となる林道である。

5,837haに及ぶ利用区域を擁し、このうち22.5%にあたる1,315haが人工林となっており、農林水産公社造林地や県有林なども含まれ、間伐等森林整備の推進や、県産材供給への期待が高まっている。また、39.1%にあたる2,285haが保安林となっており、水源の涵養や土砂流出の防備など、公益的機能発揮に向けた森林整備が必要となっている。

このため、当事業により森林基幹道を整備し、森林の適切な管理と林業生産性の向上に資するものである。

評価の視点と自己評価内容

1. 事業を巡る社会経済情勢等の変化

指標名	単位	事業着手時	今回評価時	備考
民有林の蓄積	万m ³	4,076	4,239	毎年33万m ³ 増加
間伐実施面積(累計)	ha	38,093	41,699	
県産材生産量	m ³	9万7千	11万8千	

自己評価内容

評価結果

○国では、令和5年10月に閣議決定された全国森林計画に沿って、森林の整備・保全、木材の生産・流通を効果的かつ効率的に実施するため、林道等の路網の開設を推進することとしている。林道の整備については、資源の充実した森林等において木材の大量輸送等に対応するため推進している。また、令和5年5月に策定された「花粉症対策の全体像」に基づき、同年10月には初期集中対応パッケージが取りまとめられ、スギ人工林の伐採・植替えに必要な路網の整備を推進することとしている。

○県においては、現在、国の計画や、カーボンニュートラルの実現、SDGsへの貢献などの昨今の社会情勢の変化等も踏まえ、新たな森林・林業振興計画を策定しており、着実に蓄積が増え本格的な利用期を迎えた人工林資源を背景に、「主伐による森林循環の加速化と持続可能な森づくり」を基本目標に定め、県産材生産量を現在の11万8千m³から令和8年度には14万m³、令和13年度には16万m³とする指標などを設定し、①林業事業者の経営力強化や生産性の向上、②主伐に対応した担い手の育成や関係人口の拡大、③災害に強い多様な森づくりの推進などに取り組むこととしている。

○この計画の中で、林道等路網の整備については、路網の根幹となり一般車両の走行を想定する林道、主として森林施業用の車両の走行を想定する林業専用道、間伐等の作業を行う林業機械の走行を想定する森林作業道を適切に組み合わせ、整備を進めることとしており、林道の開設にあたっては、優先度の高い重点整備区間を設定して予算の重点投資により事業効果の早期発現を図ることとしている。

○本事業については、国及び県の施策に合致しており、事業の継続が必要である。

事業継続が妥当

2. 事業の投資効果

指標名	単位	事業計画策定時	今回評価時	備考
費用便益比(B/C) (※評価対象区間だけでなく路線全体)	-	1.43	1.37	

数値化が困難な事業効果

・神通峡に隣接する集落の災害時における避難の代替路確保の効果が見込まれる。

自己評価内容	評価結果
<p>○当路線は、5, 837haに及び利用区域を擁し、このうち22. 5%にあたる1, 315haが人工林となっており、農林水産公社造林地や県有林なども含まれることから、当路線の整備を通じて、間伐等森林整備が必要な森林へのアクセスが容易となり、間伐材等木材の生産性向上が図られるとともに、森林整備の実施により森林の公益的機能の向上が見込まれる。</p> <p>○また、総費用総便益比は1.37であり、事業の高い投資効果が見込まれる。</p>	事業継続が妥当

3. 事業の進捗状況、見込								
全体計画			令和6年度まで整備済		未整備内容		令和6年度までの進捗率 (%)	
主な工種(単位)	数量	事業費(百万円)	数量	事業費(百万円)	数量	事業費(百万円)	事業量ベース	事業費ベース
森林基幹道 (km)	4.1 (3.6)	1,248 (920)	0.0	201	4.1 (3.6)	1,047 (719)	0.0% (0.0%)	16.1% (21.9%)
			※630mの開設工事に着手済み					

残事業内容および今後の整備見込

○630mの開設に着手済みである。(舗装工が完了しておらず、未完区間。)未着手区間は約3.5kmである。

○事業費について、線形の見直しによる計画延長の増により増額し、これに伴い事業期間も延長。

○事業着手時に判明した使用承諾の取得が困難な土地について、線形の見直しを図るとともに、新たな線形における土地所有者の使用承諾も得られており、また、農林水産公社造林地の作業道の利用承諾も得られ工区の増も可能となっており、今後は順調に整備が進む見込みである。

自己評価内容	評価結果
<p>○事業着手前に、地元代表者(不在村地主)に事業実施の同意を得ていたが、工事入札直前に工事用地の一部において土地使用承諾の取得が困難な土地が見つかり、当初線形を見直すこととなった。新たに通過する土地使用承諾の取得に取り組んだが、新型コロナの影響により、土地所有者との接触が度々中断し、用地の確定、土地使用承諾の取得に不測の日数を要した。また、新たに通過する土地所有者から再度、線形変更を要求され、国との重要変更協議にも不測の日数を要した。今後は、土地使用承諾も得られ、また、農林水産公社造林地の作業道を資材運搬路として使用する承諾も得られたことから、複数の工区で事業を実施することも可能であり、予算確保と重点配分により大幅に進捗を図る予定である。</p>	事業継続が妥当

4. 今後のコスト縮減や代替案立案等の可能性(工法、計画の見直し等含む)	
自己評価内容	評価結果
<p>○コンクリート2次製品(L型擁壁など)の採用により、コンクリートの現場打設による施工工間を削減するとともに、切土量を抑制し、現地発生土を活用することにより費用を縮減する。(1mあたり約10万円縮減)</p> <p>○地形に沿った線形とすることで、土工量を抑制し、残土処理に係る費用を縮減する。(1mあたり約4千円縮減)</p> <p>○低軌道衛星通信を活用した通信環境の構築やICT建機の活用など、ICT技術の活用により、施工効率の向上に努める。</p>	事業継続が妥当

その他の視点

5. 関係機関との調整状況、他事業との関連など

○富山市、農林水産公社、立山山麓森林組合等林業事業体、土地所有者から早期の完成を求められている。

○既完成区間において、当路線を起点として林業専用道や森林作業道が作設され、それらの路網を活用して間伐等森林整備が着実に進められ、木材生産量が飛躍的に伸びており、事業効果は極めて高い。

6. 事業の緊急性(適時性)および事業を見直した場合に想定される影響

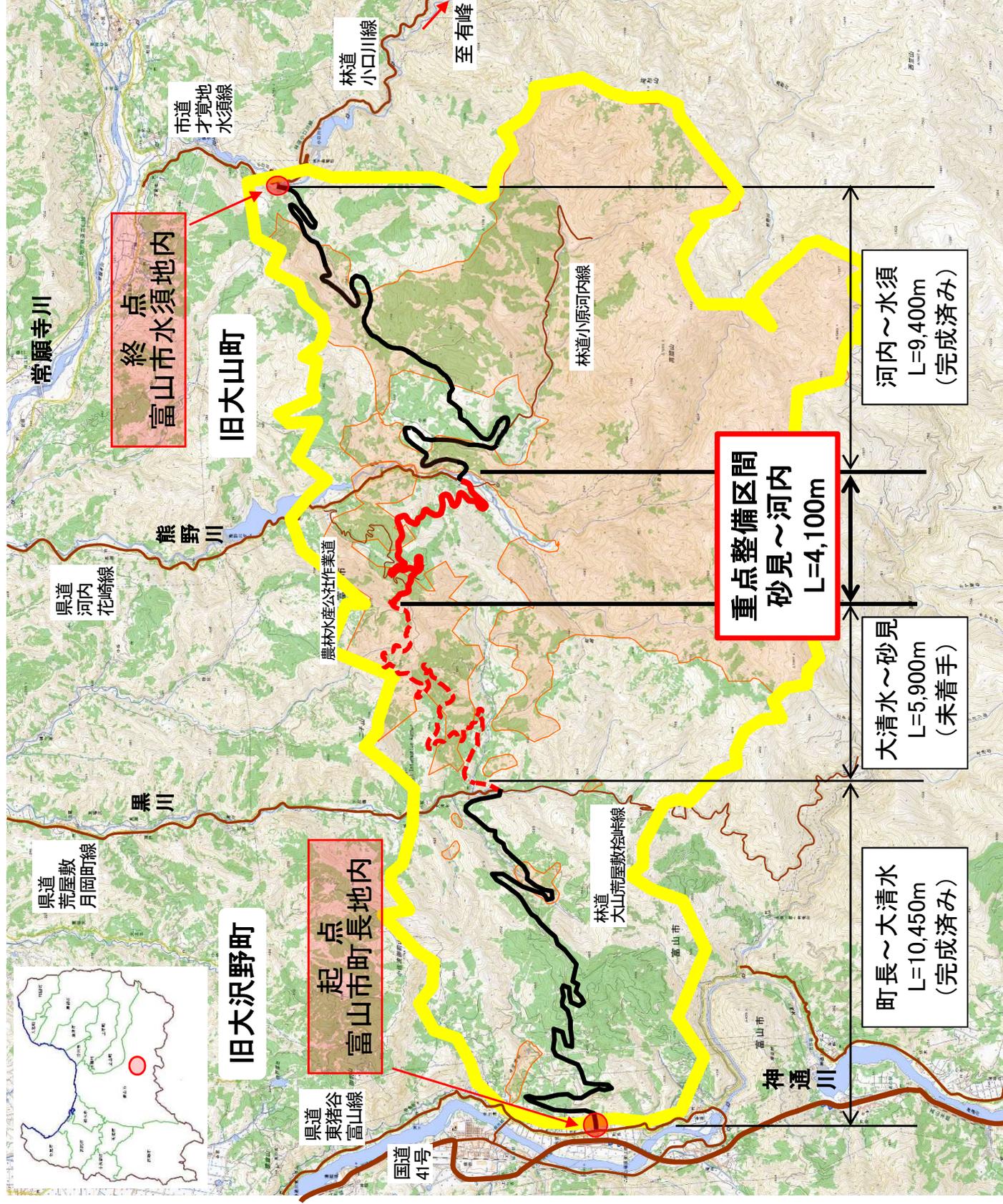
○当路線の利用区域内の森林は、県全体の平均的な森林の林齢構成と比較して、若い森林が多く、依然として間伐の推進が必要となっており、既完成区間においては間伐等森林整備が着実に進む一方で、当該区間(本評価対象の区間)の沿線に広がる農林水産公社造林地などの人工林は、間伐等の実施が遅れており、経営改善を進めている同会社からは、速やかな事業推進が求められている。

○既開設区間において、林業専用道等を開設し、間伐等により木材生産に取り組んでいる立山山麓森林組合などの林業事業体からは、さらなる事業地の確保に向けて、当該区間の整備を一層推進するよう求められている。

自己評価内容の総括

対応方針(案)	対応方針(案)の説明
継続	<p>○事業を契機に、林業専用道や森林作業道の開設により林内路網が構築され、間伐等森林整備と木材生産が進んでいる。</p> <p>○事業の投資効果である総費用総便益比が(計算中)で高い。</p> <p>○残事業については、地元からも早期完成を求められており、予算の確保と重点的な配分により大幅な事業の進捗を図る予定である。</p>

県営林道開設交付金事業 町長水須線 位置図



計画延長

29, 850m

うち完成延長

19, 850m

全幅員 5. 0m

利用区域面積

5, 837ha

うち

人工林面積

1, 315ha (22.5%)

保安林面積

2, 285ha (39.1%)

凡 例

計画区間



造林地



保安林



利用区域



終 点
富山市水須地内

旧大山町

熊野川

県道
河内
花崎線

黒川

県道
荒屋敷
月岡町線

旧大沢野町

起 点
富山市町長地内

県道
東猪谷
富山線

国道
41号

林道
大山荒屋敷峠峠線

神通川

重点整備区間
砂見～河内
L=4,100m

大清水～砂見
L=5,900m
(未着手)

河内～水須
L=9,400m
(完成済み)

町長～大清水
L=10,450m
(完成済み)

林道
小口川線

至有峰

林道小原河内線

市道
才覚地
水須線

県営林道開設交付金事業 町長水須線

整備の状況

整備前



整備後



整備前



整備後



既設区間における森林整備の状況



作業道開設と間伐の実施



間伐材の搬出



伐採跡地への新植



植栽木の雪起こし